PRESS RELEASE

〈報道関係各位〉

YURINDO

2025 年 6 月 19 日

株式会社有隣堂

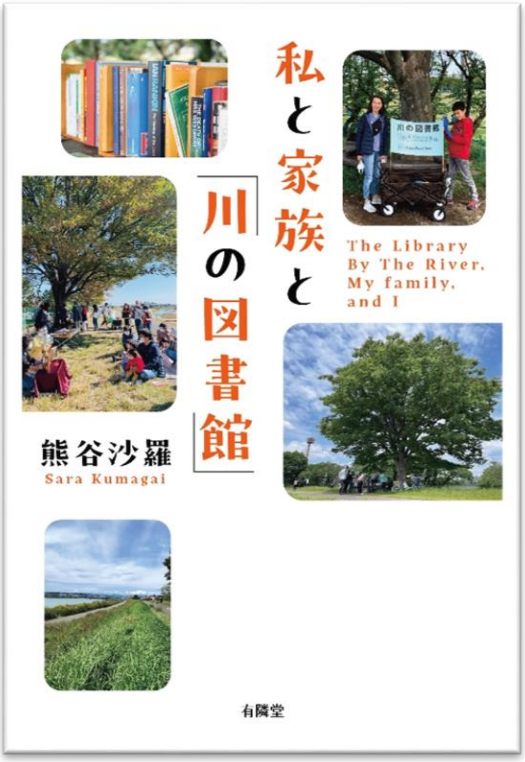
「本」があるところに人が集まる――「川の図書館」5年間の活動と家族の絆を語る

最新刊『私と家族と「川の図書館」』8月5日発売

13歳で「Book Swap Japan」を始めた熊谷沙羅氏の現在地とこれから

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市 代表取締役 社長執行役員：松信 健太郎）は、8月5日(火)、当社出版物の最新刊として、『私と家族と「川の図書館」』を発売いたします。著者の熊谷沙羅氏は、2020年のコロナ禍のなか、当時13歳で「人が本と出合える場所」を創ろうという思いから、多摩川河川敷のケヤキの木の下に、「Book Swap Chofu 川の図書館」を開館しました。この活動は徐々に地域住民に支持され、SNSで拡散される中、「Book Swap Japan」として全国に広がりを見せています。

本書では、活動の原点と発展の軌跡をたどりながら、家族との対話を通して自身の内面を深く掘り下げ、18歳を迎えた現在の心境と未来への展望を語ります。本を社会に循環させ、本を通して人をつなぎ、笑顔を届けることを目指す姿が、読む人を勇気づけ、様々な知恵や気づきをもたらす一冊です。



●書　名：『私と家族と「川の図書館」』
●著　者：熊谷　沙羅
●出版社：有隣堂
●定　価：税込1,540円（本体1,400円＋税）
●体　裁：四六判並製・本文208頁
●ISBN　：978-4-89660-256-2
●発売日：2025年8月5日（火）
●取り扱い：有隣堂各店（一部店舗除く）、全国の書店

●内　容：
コロナ禍で図書館も閉ざされた 2020 年、13 歳だった著者は「人が本と出合える場所」を創ろうと思い立つ。自宅や地域の人々から本を集め、多摩川の河川敷に「川の図書館」を開館。初めは週 2 回から始まり、次第に、日曜午前の本好きたちの集う「恒例の場」になる。やがて地域住民が集まり、「本を通じた人々のサードプレイス」として注目される。活動はやがて「Book Swap Japan」として全国に広がり青森から福岡まで約 10 カ所に展開。それから 5 年、18 歳になった著者は海外留学も視野に、次の人生を歩み出す。
本書では、幼少期の教育から、父・母・弟との家族との絆、13 歳から始めた活動で得た学びなど、自身の振り返りを通して、「なぜ本は人をつなぎ、人は本を求めるのか」その原点を垣間見ることができる。

【目次】
Chapter 1　ディナーテーブルから生まれた「川の図書館」
Chapter2　父・アントニオと話してみた　熊谷家ヒストリー

Chapter３　あっという間に動き出した「川の図書館」プロジェクト
Chapter４　母・スサナと話してみた　ファミリールールの謎
Chapter５　弟・大輔と話してみた　家族について思うこと
Chapter６　「川の図書館」と私　現在地とこれから

■著者プロフィール

熊谷 沙羅（くまがい・さら）

2006 年生まれ。東京都調布市在住の社会活動家。両親はベネズエラ出身。2020 年、13 歳のときに「Book Swap Chofu 川の図書館」を開館。自由に本を持ち帰り交換できるこの私設図書館は、地域住民の交流の場として注目を集め、メディア取材や講演依頼も多数。自ら「Book Swap Japan」と名付けた活動は現在、青森から福岡まで全国に広がっている。家族が協力して運営に携わり、弟の大輔さんと精力的に活動中。

■本書のみどころ

「本」があるところに人が集まる――「川の図書館」という新しいコミュニティ

「本はただの情報ツールではなく、人と人をつなぐ媒介である」――そう気づかせてくれるのが「川の図書館」の存在です。
「本を交換する」というシンプルな仕組みが、世代も立場も異なる人々の間に自然な「会話」と「つながり」を生み出しています。
「本が売れない時代」と言われる中で、本の新たな価値と可能性を提示するこの活動は、読者に問いかけます。
「本とは何か」「本屋の未来はどうあるべきか」。

■有隣堂の出版物

https://www.yurindo.co.jp/publication/book/